

2006年5月22日 説明会

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2006年3月期連結決算内容

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

広報IR部 横山一樹

: 03-3248-2235

E-mail: yokoyamakz@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

06 / 3は加工食品と低温物流が牽引し増収・大幅増益

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2006年3月期の連結業績

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	05/3	06/3(E)	06/3	06/3対05/3比較	
				増減額	増減率
売上高	4,614	4,690	4,694	+79	+1.7%
営業利益	134	150	160	+25	+18.8%
経常利益	128	145	156	+27	+21.5%
当期純利益	58	62	62	4	+7.1%

- 06 / 3(E)・・・2006年3月期見込・・・は2月8日に発表したもの
- 売上高**

全体では水産の不振があるものの2%の増収、加工食品、低温物流が好調。
 - 営業利益**

加工食品は売上拡大による生産工場の操業度改善効果や原料鶏肉価格の沈静化が寄与し27%、12億円の大増益。
 水産は前期より繰り越した「かに」「魚卵類」の在庫処分による損失に加え、全体では調達競争の激化と国内販売価格の低迷から取扱を絞り込み適正在庫水準維持を優先したため固定費を賄う取扱量が確保できず、営業損失を解消できなかった。
 低温物流は地域保管が地域密着営業による着実な集荷とローコスト化が進んだことに加え、物流ネットワークの前年新設稼働センターが寄与し63%、22億円の大増益。
 - 経常利益**

金融収支は05 / 3比で3億円改善、持分法投資利益は4億円のマイナス。
 - 当期純利益**

特別損益は05 / 3比で5億円のマイナス、減損会計の適用による損失が42億円発生。

加工食品は増収・大幅増益、水産は営業損失を拡大

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その1)

1.加工食品

全体では05 / 3比4%の増収、27%の大幅増益。チキン加工品は市場が回復するなか、から揚げ商品を軸に売上の更なる拡大に成功し増収を牽引、原価面も国内グループ工場の操業度改善や原料価格沈静化で大きく改善が進み採算が向上した。

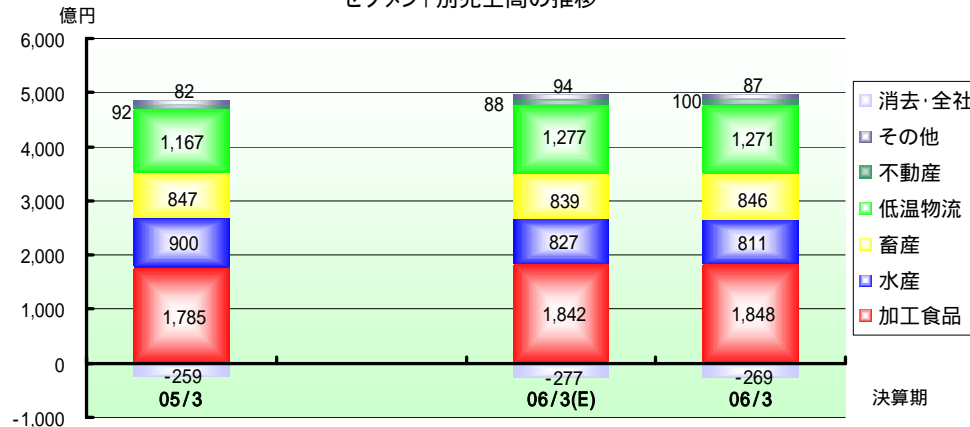
2.水産

全体では調達競争の激化と国内販売価格の低迷から取扱を絞り込み適正在庫水準維持を優先したため固定費を賄う取扱量が確保できず05 / 3比で10%の減収、前期より繰越した「かに」「魚卵類」の在庫処分も加わり営業損失は拡大した。「えび」は販売価格低迷が続く素材えびの取扱絞り込みなどで減収・減益。

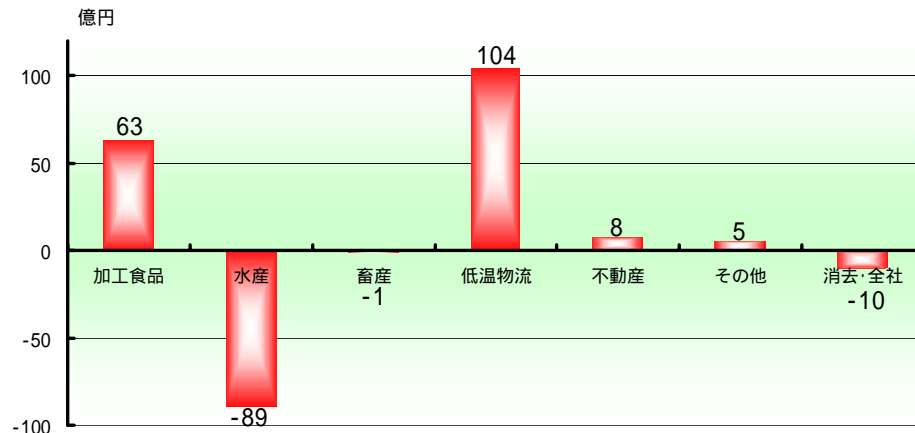
3.畜産

全体では売上は前年並を維持、鶏肉は輸入品の減を国産品でカバーし増収、牛肉は生鮮品や豪州産が順調に推移したが牛タンの市況急落で減益、豚肉は米国産牛肉の代替需要や品薄感から国産品・輸入品とも好調に推移。

セグメント別売上高の推移



セグメント別売上高対前期比増減額



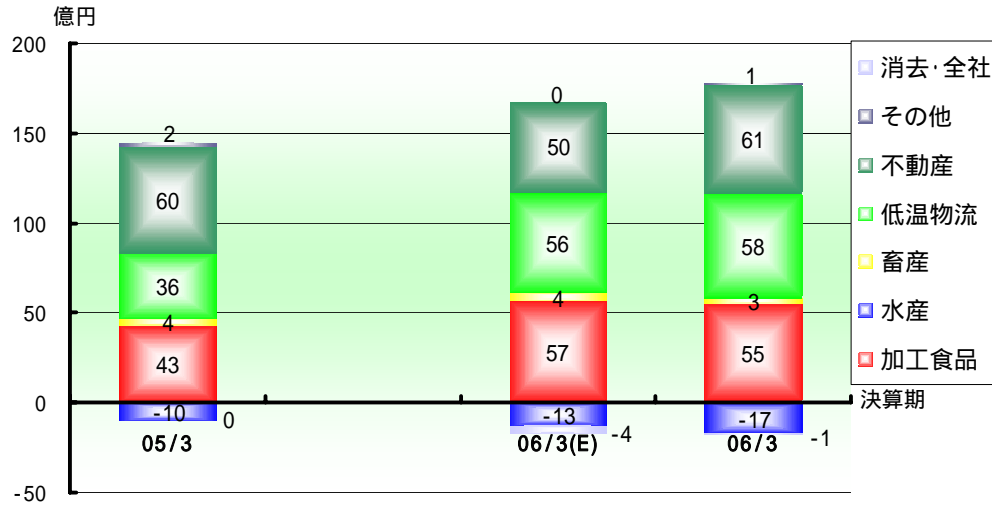
(以下、グラフの金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている)

低温物流は大幅増収・増益、不動産は分譲が順調

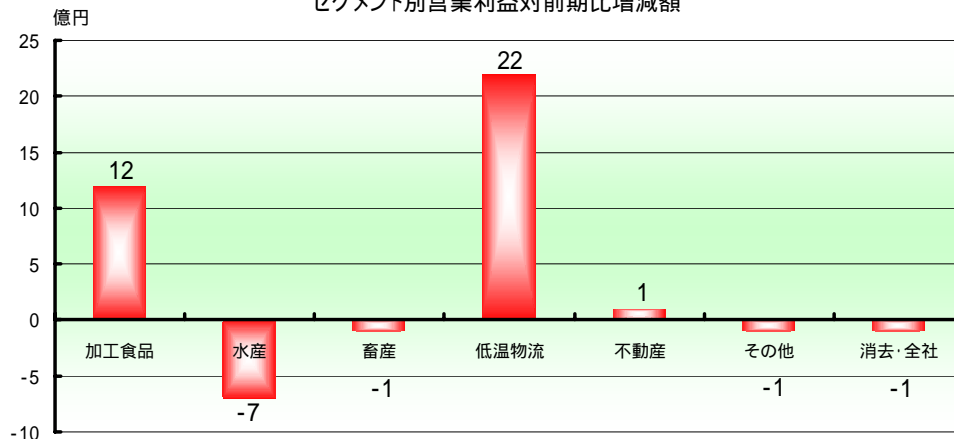
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

セグメント別売上高と営業利益(その2)

セグメント別営業利益の推移



セグメント別営業利益対前期比増減額



4.低温物流

05/3に新設稼動した物流ネットワークの拠点のフル寄与と、地域保管の地域密着営業による集荷に加え、東京港湾地区の在庫が高水準で推移したことから05/3比で9%と大幅増収、営業利益は地域保管のローコスト化の取り組みも相まって63%の大幅増益。

5.不動産

宅地に加え、大阪市此花区の土地および幕張マンションの分譲などにより増収・増益に。

6.その他

バイオサイエンスは培地製品が好調で増収だが利益率の高い機能性素材の取扱量が減り減益。米国のてんぐはBSEの影響が長期化し生産を大幅に縮小した状態が続く。

全体で増収、業務用調理冷凍食品が牽引

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷凍食品売上高

1. 冷凍食品全般

05 / 3比3%の増収。調理冷食は業務用が牽引し全体では5%の増収と好調に推移。冷凍野菜はハッシュドポテトやブロッコリーの売上が伸張り4%の増収。

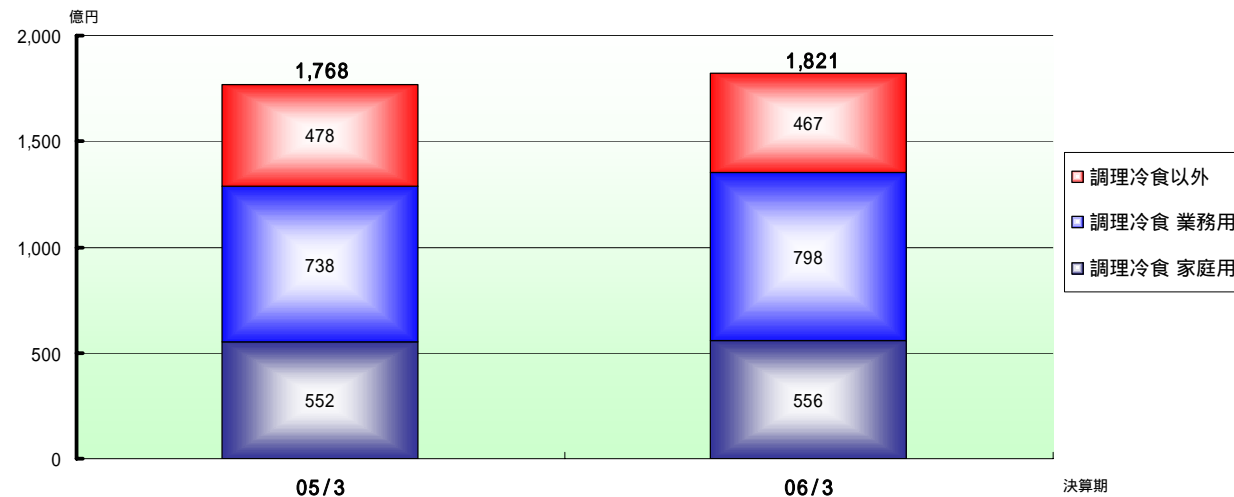
2. 調理冷食

家庭用: 05 / 3比1%の増収。「本和風若鶏から揚げ」などのチキン加工品が牽引、「ミニハンバーグ」「今川焼」が増収に寄与。『お弁当にGood!』は「ミニハンバーグ」「やわらかひとくちカツ」「衣がサクサク牛肉コロッケ」が好調に推移したものの、シリーズ全体では伸び悩む。

業務用: 05 / 3比8%の高い伸び。「若鶏のやわらか唐揚げ」などチキン加工品が牽引したほか、惣菜業態向けの『ほっとするおかず』シリーズが増収に寄与。

カテゴリー別にはチキン加工品の更なる拡大と「やわらかひとくちカツ」やメンチカツが好調な食肉加工品をはじめ、「衣がサクサクのコロッケ」シリーズのコロッケ類や米飯類が好調に推移し増収に貢献。

冷凍食品売上高の推移

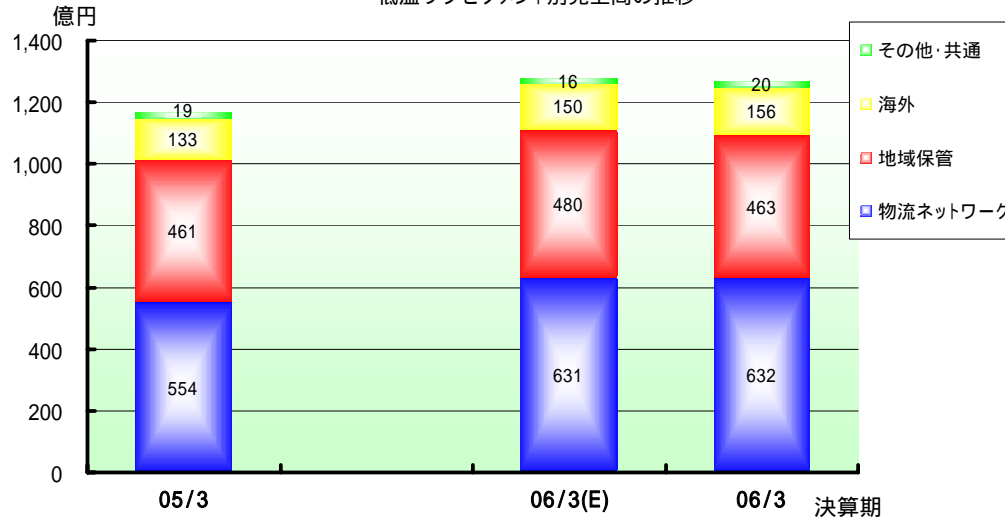


低温物流は地域保管の回復が大幅増益に貢献

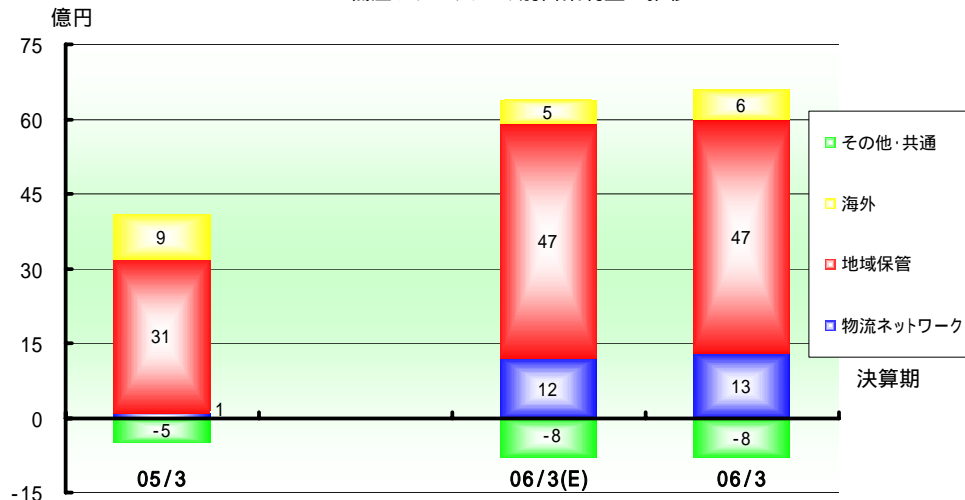
「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

低温物流事業の対前期比増減の要因

低温サブセグメント別売上高の推移



低温サブセグメント別営業利益の推移



1. 物流ネットワーク

05/3に新設稼動した拠点のフル寄与と、下期に新設センターが1ヶ所稼動し大幅増収、運送が燃料費の上昇と配送効率低下で収益を圧迫するも不採算事業所の改善が進み大幅増益。

2. 地域保管

地域密着型営業による着実な集荷が進み取扱量が増加、東京港湾地区は大幅に在庫量が回復し、売上は去年の九州地区食品部門売却による減収要因を除くと2%の増収。

組織再編による本社・地域各社管理要員の削減や固定費の変動費化が進み営業利益は大幅増益。

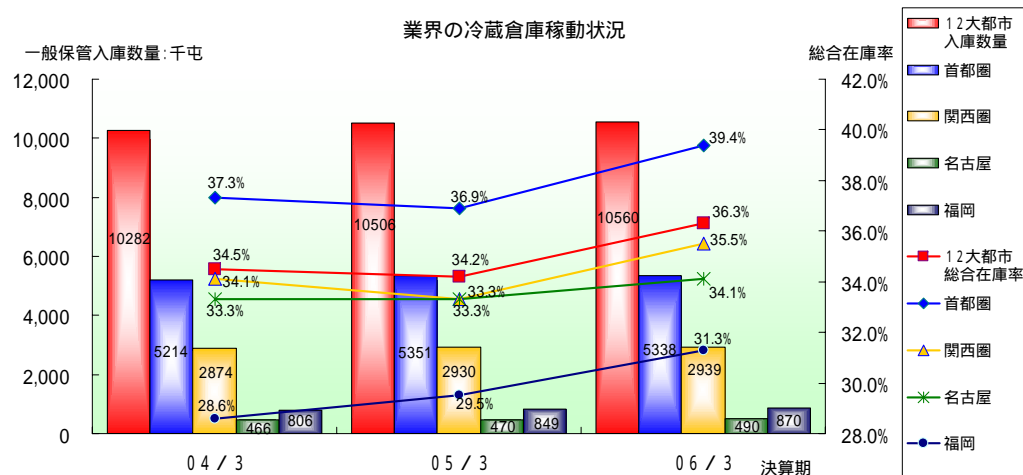
3. 海外

果汁保管と運送は順調に売上を拡大するも、一部冷蔵庫の後荷対策の遅れや競争激化による保管料率の下落が響き全体では増収・減益。

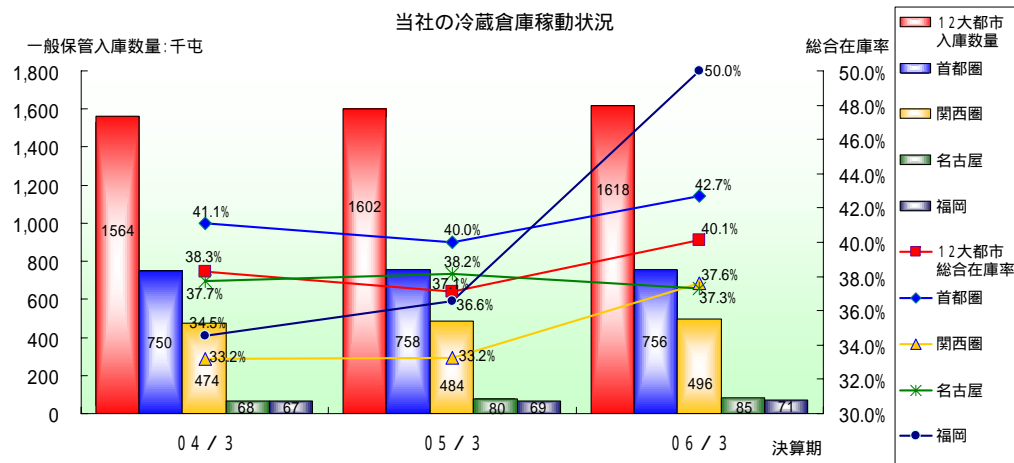
首都圏では庫腹が逼迫し入庫量が減少

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 **Nニチレイ**

冷蔵倉庫の稼働状況



(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)



1. 業界の状況

入庫量は12大都市では0.5%の増加、首都圏では微減、総合在庫率は全般的に上昇。

2. 当社の状況

首都圏では庫腹状況が逼迫しており入庫量が微減、在庫率は鶏肉輸入量の回復に加え首都圏を中心に畜産物の回転が停滞し上昇傾向が続く。

3. 業界の設備能力

業界全体では微増。

冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア

(2006年1月1日現在)

社名・グループ名	拠点数	能力 万ト	05/1比 増減	能力 シェア	主たる営業地域
ニチレイグループ	90	133	-2	12%	全国
マルハグループ	48	61	-5	6%	全国
横浜冷凍	38	60	5	5%	全国
東洋水産グループ	23	40	-1	4%	全国
日本水産グループ	23	34	-1	3%	全国
五十嵐冷蔵	8	19	0	2%	関東
松岡	6	16	0	1%	関東、関西、中国
宝船冷蔵	4	11	0	1%	関西
キューソー流通システム	21	11	0	1%	全国
兵食	7	11	0	1%	関西
ヒューテクノオリン	8	11	0	1%	全国
二葉	4	10	2	1%	関東
川西倉庫	7	10	1	1%	関東、関西
中央冷凍	8	9	0	1%	関東
東京豊海冷蔵	4	9	0	1%	関東
山手冷蔵	5	9	0	1%	関東、中部
港湾冷蔵	6	8	0	1%	関東、関西、九州
その他	1,358	643	18	58%	
合計	1,668	1,108	16	100%	

(日本冷蔵倉庫協会発表のデータを当社で加工)

有利子負債残高は中期計画目標を達成

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

06 / 3期連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

【主な要因】

科目	05/3	06/3	増減
(資産の部)			
流動資産	1,088	1,081	-6
固定資産	1,675	1,603	-72
資産の部合計	2,764	2,685	-79
(負債・資本の部)			
流動負債	933	830	-103
固定負債	883	821	-62
負債の部合計	1,817	1,652	-165
少数株主持分	6	6	-0
資本の部	940	1,026	86
(有利子負債)	1,119	862	-257
科目	05/3	06/3	増減
(設備投資額)	49	65	15
(減価償却実施額)	111	107	-3

株価上昇による時価評価額の増加で投資有価証券が69億円増加、一方、有形・無形固定資産は設備投資は増加したが減価償却に加え、土地の減損処理や資産効率向上のため売却を進めたこともあり124億円の減少。仕入債務は14億円の増加、リース資産減損勘定を21億円計上。一方、コマーシャルペーパーや長短借入金の返済が進み264億円減少。

中期計画の期末残高目標970億円以下を1年前倒しで達成。

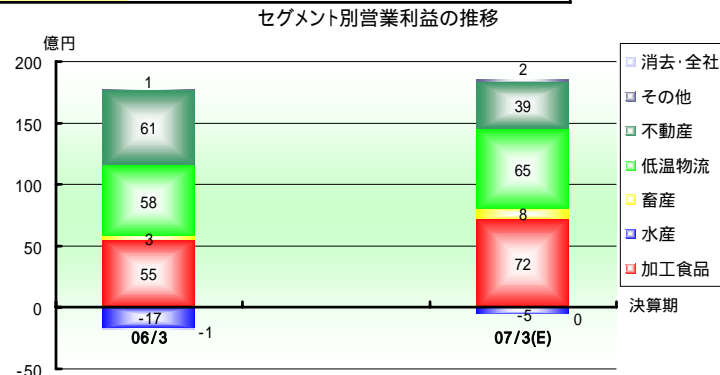
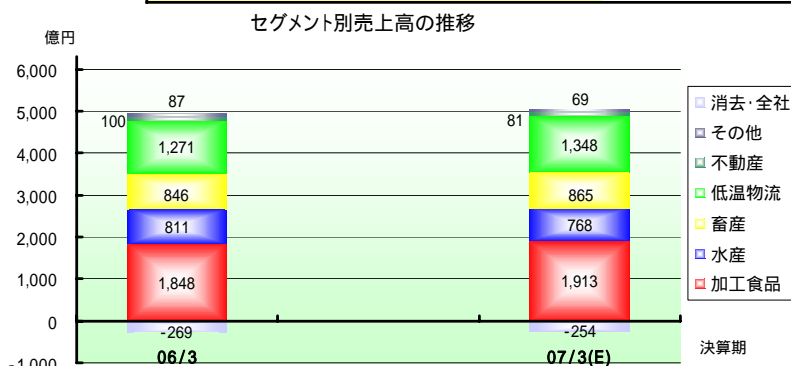
06 / 3の設備投資の主なもの：
ニチレイフーズ工場統廃合に伴う生産工場増設ならびに生産ライン増設
都城物流センターの増設
石狩物流センターの新設

コア事業の牽引と水産事業の損失幅圧縮で大幅増益に

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

2007年3月期の連結業績見込み

単位:金額 = 億円(未満切捨て)	06/3	07/3(E)	07/3(E)対06/3比較	
			増減額	増減率
売上高	4,694	4,790	95	2.0%
営業利益	160	181	20	13.0%
経常利益	156	175	18	11.7%
当期純利益	62	93	30	47.8%



- 売上は加工食品、畜産、低温物流が増収、再生プラン途上の水産は減収だが損失幅を12億円圧縮し、全体では13%、20億円の営業増益を実現する。
- 加工食品は、業務用調理冷凍食品を中心に売上高を伸長し、グループ工場の操業度改善により利益拡大を図る。
- 低温物流は、ネットワーク事業で売上伸張、不採算事業所の改善や運送業務のテコ入れを急ぎ増益を実現する。
- 減損損失など特別損失が減少、営業利益増と相まって当期純利益は過去最高となり、一株当たり当期純利益は30円に。

07 / 3の特別損益は前期比プラスに

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

単位:億円、単位未満切り捨て プラス表示は利益を示す		06 / 3対05 / 3比較			07 / 3E対06 / 3比較				
		06 / 3	05 / 3	増 減	07 / 3E	06 / 3	増 減		
【営業外収支】 (主要項目)		- 3	- 5	+ 2	【営業外収支】 (主要項目)		- 6	- 3	- 3
金融収支		- 10	- 13	+ 3	金融収支		- 11	- 10	- 0
持分法投資損益		+ 10	+ 14	- 3	持分法投資損益		+ 8	+ 10	- 2
【特別損益】 (主要項目)		- 25	- 20	- 4	【特別損益】		- 15	- 25	+ 11
固定資産売却益		+ 54	+ 5	+ 48					
固定資産売却損		- 24	- 9	- 15					
減損損失		- 41	-	- 41					
特別退職金		- 5	- 9	+ 4					
事業所閉鎖損失		- 14	- 3	- 10					

持分法投資損益の増減の主な内訳

06 / 3:アールワイフードサービスが 2億円、京都ホテルの持分低下で 2億円

07 / 3E:アールワイフードサービスが10月に持分法適用から外れる見込みで 3億円

生産工場跡地など、土地の売却によるもの

低温物流の基幹システム売却に伴う損失 17億円

減損会計の適用によるもの

06 / 3は、水産事業の早期退職者に対する割増退職金

博多・白石の生産工場と札幌・松山・高知・博多の冷蔵倉庫閉鎖によるもの

07 / 3に発生が見込まれる主なものは、固定資産売却損・除却損

データ集

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。 

セグメント別売上高・営業利益の実績・見込

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

	05 / 3	06 / 3		07 / 3 (E)
		(E)	実績	
(売上高)				
加工食品	1,785	1,842	1,848	1,913
水産	900	827	811	768
畜産	847	839	846	865
低温物流	1,167	1,277	1,271	1,348
不動産	92	88	100	81
その他	82	94	87	69
全社または消去	-259	-277	-269	-254
合計	4,614	4,690	4,694	4,790
(営業利益)				
加工食品	43	57	55	72
水産	-10	-13	-17	-5
畜産	4	4	3	8
低温物流	36	56	58	65
不動産	60	50	61	39
その他	2	0	1	2
全社または消去	0	-4	-1	0
合計	135	150	160	181

06 / 3 (E) は2月8日に発表したもの

当資料取扱い上のご注意

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。  ニコレイ

当資料に記されたニコレイの現在の計画・見通し・戦略等のうち歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に対する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニコレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、様々な重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニコレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- 食品に関する衛生問題等について
- 商品や原材料の価格変動について
- 商品回収について
- 固定資産の保有リスクについて
- 保有有価証券について
- 為替変動リスクについて など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニコレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。